

Symphony

TOKYO SYMPHONY ORCHESTRA MONTHLY CONCERT BROCHURE

2023
JULY &
AUGUST

No. 92

Sat. 15th July Kawasaki Subscription Concert

No. 712

Sun. 16th July Subscription Concert

No. 2

Tue. 8th August Karuizawa Series

No. 713

Sat. 19th August Subscription Concert

No. 132

Sun. 20th August Niigata Subscription Concert

7
&
8



Jonathan Nott, *Music Director*



TOKYO SYMPHONY ORCHESTRA

Jonathan Nott, Music Director

音楽監督	ジョナサン・ノット
桂冠指揮者	秋山和慶 ユベール・スダーン
正指揮者	原田慶太楼
名誉客演指揮者	大友直人
永久名誉指揮者	アルヴィド・ヤンソンス ◆ 上田 仁 ◆ 遠山信二 ◆

名誉コンサートマスター 大谷康子

コンサートマスター 小林杏成
グレブ・ニキティン

アシスタント・
コンサートマスター 田尻 順

会 長 澤田秀雄

理事長 岡崎哲也

副理事長 平澤 創

依田 巽

専務理事 廣岡克隆

理 事 阿部武彦 永山 治

池辺晋一郎 夏野 剛

伊藤美樹 南部靖之

大橋 博 福川伸次

庄司 薫 藤原 洋

竹中平蔵 増岡聡一郎

辻 敏

監 事 磯村文靖

寺西基之

評議員長 金山茂人

最高顧問

評議員 梅沢一彦 加藤英輔

鷗海量明 星 久人

片山泰輔 山添 茂

特別顧問 飯島延浩

草壁悟朗

福田紀彦

1st Violins

- 木村正貴
- 堀内幸子
- 小川敦子
- 小山あずさ
- 立岡百合恵
- 土屋杏子
- 中村楓子
- 水谷有里
- 森岡ゆりあ
- 吉川万理

2nd Violins

- 清水泰明
- 服部亜矢子
- 坂井みどり
- 加藤まな
- 福留史紘
- 阿部真弓
- 河裾あずさ
- 鈴木浩司
- 竹田詩織
- 辻田薫り
- 塩谷しずか
- 渡辺裕子

Violas

- 青木篤子
- 武生直子
- 西村真紀
- 多井千洋
- 山廣みほ
- 小西心興
- 鈴木まり奈
- 永井聖乃

Cellos

- ☆伊藤文嗣
- 笹 樹
- 川井真由美
- 内山剛博
- 蟹江慶行 ●
- 謝名元 民
- 樋口泰世
- 福岡茉莉子

Double Basses

- 助川 龍
- 北村一平
- 久松ちず
- 安田修平
- コーディ・
- ローズブーム
- 渡邊淳子

Flute

- 相澤政宏
- 竹山 愛 *

Flutes & Piccolos

- 高野成之
- 濱崎麻里子

Oboes

- 荒 絵理子
- 浦脇健太

Oboe & English horn

最上峰行

Clarinets

- エマニュエル・ヌヴー
- 吉野亜希菜
- 近藤千花子
- 小林利彰

Bassoons

- 福井 蔵
- 福士マリ子
- 坂井由佳
- 前関祐紀

Horns

- 上間善之
- 加藤智浩
- 阪本正彦
- 清根伸吾

Trumpets

- 佐藤友紀
- 澤田真人
- 野沢岳史 ●
- 松山 萌

Trombones

- 馬塚心輔
- 大馬直人
- 住川佳祐

Bass Trombone

藤井良太

Tuba

近藤陽一

Timpani & Percussions

- 清水 太
- 山村雄大
- 岡山芳史
- 綱川淳美
- 新澤義美

Librarians

林 知也
加藤幸子

Stage Managers

西岡理佐
山本 聡

楽団員

井伊 準 ◆

楽団長

廣岡克隆

編成局長

藤原 真

パーソネル・マネージャー

大和田浩明

楽団委員

- 相澤政宏 (議長)
- 清水泰明 (書記)
- 小西心興
- 清水 太
- 藤井良太
- 最上峰行

事務局長

辻 敏

事務局

- 市川明都
- 伊藤瑛海
- 小川博司
- 尾木貴雄
- 桐原美砂
- 佐藤雄己
- 高瀬 緑
- 竹内裕子
- 長久保宏太郎
- 山田道子
- 梶川純子
- 榎 日向 *

名誉団友

- 深江泰輔 ◆
- 三木晴雄

団 友

- 天野佳和
- 新井 汎
- 安藤史子
- 池田 隆
- 石川晴悦
- 今村和弘
- 岩澤淳子
- 上原正二
- 上原規照
- 上原未莉
- 内田彬雄
- 内田乃利子
- 宇都 実
- 梅田 学
- 大隅雅人
- 大塚正昭
- 大慈康男
- 西依智子
- 西脇秀治
- 野村真澄
- 馬場隆弘
- 原田英保子
- 日野 奏
- 狭野 昇
- 奥田昌史
- 音川健二
- 加藤谷直美
- ボーマン
- 前田健一郎
- 松崎里絵
- 丸山正昭
- 三浦正信
- 宮原祐子
- 宮本直樹
- 宮本 睦
- 森みさ子
- 諸橋健久
- 渡辺 功
- 渡辺啓郎
- 佐々木真
- 篠崎 隆
- 菅野明彦
- 杉浦直基
- 鈴木一輝
- 芹澤英雄
- 曾根敦子
- 武田英昭
- 田中英輔
- 千村雅信
- 十亀正司
- 豊山 悟
- 中塚和良
- 中塚博則
- 中山 智
- 西依智子
- 西脇秀治
- 野村真澄
- 馬場隆弘
- 原田英保子
- 日野 奏
- 狭野 昇
- 奥田昌史
- 音川健二
- 加藤谷直美
- 笠原勝二
- 甲藤さち
- 加藤信吾
- 金澤 茂
- 久保田一穂
- 熊谷仁士
- 黄原亮司
- 小林照雄
- 小林亮子
- 渡辺 功
- 渡辺啓郎

【ハーブ寄贈：環境ステーション株式会社】

☆ソロ首席奏者 ●首席奏者 □客演首席奏者 ○フォアシュペーラー ●インスペクター

■本部長 □シニア・ディレクター * 研究員・準事務局員 ◆ 故人

演奏会でのお願い Concert Manner Guide



チケットに記載された 座席でご鑑賞ください

お手持ちのチケットは記載されている座席番号にのみ有効です。
座席移動はご遠慮ください。

Please be seated at the seat number designated on your ticket.



演奏中はお静かに

手荷物に付けている鈴やビニール袋等は音を立てないようにご
配慮ください。演奏中の私語、プログラムやスコア等紙類をめく
る音、かばんのチャック等をさわる音も思っている以上に場内
に響きます。

Please be silent during the performance.



開演前に携帯電話、時計のアラーム音、 電子機器等の電源はOFF

マナーモードにしても振動する音が響きますので、電源は
必ず切るようにしましょう。

Switch OFF your mobile telephones, wristwatch alarms and
all other noise-emitting electronic devices before the
performance begins.



周囲の視界を遮るような 行為はやめましょう

身を乗り出しての鑑賞や、つばの広い帽子や高さのある帽子は
脱いでご鑑賞ください。またリズムをとる行為も迷惑になりま
すのでおやめください。

Please refrain from wearing hats or rhythmically swaying in a way
which could disturb or obstruct the view of those seated near you.



ホール内での録音・録画・ 許可のない写真撮影は禁止です

Photography, filming and recording are prohibited.



演奏中の飲食はご遠慮ください

のど飴等の包み紙を開ける音は場内に響きますので、演奏中の
開封はご遠慮ください。

Refrain from eating and drinking during the performance.



補聴器の確認を

補聴器をご使用のお客様は、ハウリングの発生を避けるために
きちんと装着されているか今一度お確かめください。

For our guests who wear hearing aid devices, please check
that your device is suitably set before the performance
begins.



開演後の入場を 制限させていただきます

開演後のご入場は制限させていただきます。途中入場がある場
合は、係員の指示に従ってください。

You will not be permitted to enter the concert hall during a
performance.



咳、くしゃみをする際は ハンカチで押さえましょう

ハンカチをあてがうことで音量はかなり軽減されます。

Please use a handkerchief to help suppress the noise from
any coughing or sneezing.



曲の余韻も演奏のうちです

音が消えゆく余韻を十分に感じてから拍手をお送りください。

The lingering sounds and moments are part of the performance.
Please hold your applause until the actual end of the performance.

カーテンコールの 撮影について

定期演奏会・川崎定期演奏会・東京オペラシティシリー
ズ・特別演奏会にて終演後のカーテンコールの撮影が可
能になりました。撮影は自席にご着席のまま、周りのお
客様へご配慮いただきますようお願いいたします。

◎前半終了時、アンコール演奏中は撮影いただけません

◎SNS等に掲載する際は、
ほかのお客様の映り込みにご注意ください

◎フラッシュの使用、目線より
高い位置での撮影はご遠慮ください

◎スマートフォン、携帯電話以外のカメラでの撮影、
自撮り棒の使用はご遠慮ください

7/15 SAT. 16 SUN.

川崎定期演奏会 第92回

2023年7月15日(土) 14:00 ミューザ川崎シンフォニーホール

Kawasaki Subscription Concert No.92

Sat. 15th. July 2023, 14:00 Muza Kawasaki Symphony Hall

第712回 定期演奏会

2023年7月16日(日) 14:00 サントリーホール

Subscription Concert No.712

Sun. 16th. July 2023, 14:00 Suntory Hall

ジョナサン・ノット [指揮]
 神尾 真由子 [ヴァイオリン]
 小林 堯成 [コンサートマスター]

Jonathan Nott, Conductor
 Mayuko Kamio, Violin
 Issey Kobayashi, Concertmaster

エルガー：ヴァイオリン協奏曲
 口短調 op.61 (48')

I.アレグロ
 II.アンダンテ
 III.アレグロ・モルト

休憩(20')

ブラームス：交響曲 第2番
 二長調 op.73 (43')

I.アレグロ・ノン・トロツポ
 II.アダージョ・ノン・トロツポ
 III.アレグレット・グラツィオーソ
 IV.アレグロ・コン・スピリト

E.Elgar : Violin Concerto
 in B minor op.61 (48')

I. Allegro
 II. Andante
 III. Allegro molto

Intermission(20')

J.Brahms : Symphony No.2
 in D major op.73 (43')

I. Allegro non troppo
 II. Adagio non troppo
 III. Allegretto grazioso
 IV. Allegro con spirito

- 主催 / 公益財団法人東京交響楽団
- 助成 / 文化庁文化芸術振興費補助金 舞台芸術等総合支援事業(創造団体支援) | 独立行政法人日本芸術文化振興会
- 後援 / 在日スイス大使館、プリティッシュ・カウンスル、川崎市(7/15)、「音楽のまち・かわさき」推進協議会(7/15)
- 協力 / ミューザ川崎シンフォニーホール(川崎市文化財団グループ)(7/15)

楽曲解説はP.06をご覧ください



MUZA
 KAWASAKI
 SYMPHONY HALL

7/15 SAT. 16 SUN.



©K.Miura

Jonathan Nott

Conductor

ジョナサン・ノット
[指揮]

Music Director
音楽監督

イギリス生まれ。フランクフルトとヴァースバーデンの歌劇場で指揮者としてのキャリアをスタートし、ルツェルン響首席指揮者兼ルツェルン劇場音楽監督、EIC音楽監督、バンベルク響首席指揮者を経て、2017年よりスイス・ロマンダ管音楽監督も務めている。抜群のプログラミングセンスと古典から現代曲まで幅広いレパートリーで、世界の主要オーケストラ・音楽祭に客演。

2010年バンベルク響とのCDが、世界で権威ある仏Midem音楽賞最優秀交響曲・管弦楽作品部門賞受賞。2009年バイエルン文化賞受賞。2016年バンベルク大聖堂にて大司教より功労勲章を授与。東響とともに2020年「ミュージック・ペンクラブ音楽賞(オペラ・オーケストラ部門)」、2022年音楽の友誌「コンサート・ベストテン」国内オーケストラ最高位、毎日新聞クラシックナビ「音楽評論家・記者が選ぶコンサート・ベストテン」第1位に選出。

レコーディング活動でも多彩な才能を発揮し、ウィーン・フィルやベルリン・フィルとの録音のほか、東響とはオクタヴィアレコードより多くのCDをリリースしている。

Among today's renowned and interesting conductors, Jonathan Nott, is probably the most fascinating. His unique talent unites what appear to be irreconcilable opposites, creating deeply emotional yet gratifyingly intellectual interpretations, connecting to his musicians at the very humblest level, and bringing an unusual depth of analysis and spontaneous, heartfelt music-making, both in the symphonic and operatic repertoires, and in the field of contemporary music.

In Japan – where he holds a 13-year contract as chief conductor of the Tokyo Symphony Orchestra – he enjoys near Popstar status, due not only to his intense and explosive aura while performing but also to his unusual programming creativity.

Unsurprisingly, he has conducted all major orchestras, performed with almost all famous soloists, and enjoys a long list of award-winning multi-channel recordings with TUDOR, SONY, PENTATONE (in 9.1 Auro 3D) and OCTAVIA. His contract as Music and Artistic Director of the Orchestre de la Suisse Romande has recently been extended indefinitely.



©Makoto Kamiya

Mayuko Kamio

Violin

神尾真由子

[ヴァイオリン]

4歳よりヴァイオリンをはじめ。2007年に第13回チャイコフスキー国際コンクールで優勝し、世界中の注目を浴びた。ニューヨーク・タイムズ紙でも「聴く者を魅了する若手演奏家」「輝くばかりの才能」と絶賛される。国内の主要オーケストラはもとより、チューリッヒ・トーンハレ管弦楽団、バイエルン州立歌劇場管弦楽団、ロシア・ナショナル・フィルハーモニー交響楽団、BBC交響楽団、ミュンヘン・フィル、イスラエル・フィルと共演。2020年10月、「JSバッハ：無伴奏ヴァイオリンのためのパルティータ」の新譜を発表。これまで里屋智佳子、小栗まち絵、工藤千博、原田幸一郎、ドロシー・ディレイ、川崎雅夫、ザハール・ブロン各氏に師事。楽器は宗次コレクションより貸与されたストラディヴァリウス1731年製作「Rubinoff」を使用している。大阪府知事賞、京都府知事賞、第13回出光音楽賞、文化庁長官表彰、ホテルオークラ音楽賞はじめ数々の賞を受賞。東京音楽大学教授。

Japanese violinist Mayuko Kamio, the gold medalist of the 2007 International Tchaikovsky Competition, is widely praised for her luxurious silken tone, long expressive phrasing and virtuoso techniques. She has toured with the National Philharmonic of Russia conducted by Vladimir Spivakov, the Budapest Festival Orchestra under Ivan Fischer, the Munich Philharmonic under Zubin Mehta, Israel Philharmonic. She was born in Osaka, in 1986, and began to play the violin at the age of four. Her teachers were Chikako Satoya, Machie Oguri and Chihiro Kudo, and she worked with Koichiro Harada at the Toho Gakuen School of Music. She completed artist's diploma studies at the Hochschule für Musik und Theater in Zurich, where she worked with Zakhar Bron. She plays on the 1735 "Sennhauser" made by Joseph Guarneri del Gesù, kindly offered by the Strad Society in Chicago. Mayuko is a professor at the Tokyo College of Music.

7/15 SAT. 16 SUN.

エドワード・エルガー (1857～1934)

ヴァイオリン協奏曲 口短調 op.61

エルガーの創作充実期は『エニグマ』変奏曲を大成功させた1899年から愛妻アリス (1848～1920) が病没して創作意欲を減じた1920年までの21年間である。彼唯一のヴァイオリン協奏曲はこの間の1910年にロイヤル・フィルハーモニック協会からの委嘱によって書かれた。構想中の同年5月27日、以前弟子入り志願を婉曲に断ったことのある若いヴァイオリニスト、ウィリアム・ヘンリー・リード (1876～1942) と再会したエルガーはリードに協力を要請する。リードは9月4日の試演会では独奏者を務めその後もエルガーのよき助言者となった。正式初演は11月10日、クイーンズホールでエルガーの指揮、フリッツ・クライスラー独奏によって行われ、曲はクライスラーに献呈された。スコアの扉にはエルガー自身のペンで「ここには……(5つの点)の精神を封じ込めてある」とスペイン語で書かれていて、長年それが誰であるか議論されてきたが、近年ではエルガーが「アネモネ」の愛称で呼んだ女友達アリス(Alice)・スチュアート＝ワートリー (1862～1936) であったことが指摘されている。

第1楽章: アレグロ、口短調、4/4拍子。協奏的ソナタ形式。まずオーケストラのみで激情と憂愁の交錯する第1主題が呈示され、その後半部の動機からクラリネット独奏によるドルチェの第2主題が導かれる。再び勢いを増したのちに独奏ヴァイオリンが第1主題の変形を掲げて登場し、次いで第2主題を甘美に弱奏する。簡潔な展開部を経て二長調の再現部に入り独奏ヴァイオリンが技巧を駆使して曲を盛り上げる。

第2楽章: アンダンテ、変口長調、4/4拍子。濃い秋色に彩られた緩徐楽章。独奏ヴァイオリンが歌い出す素朴な主題をオーケストラが引き取ると、独奏ヴァイオリンが対旋律を展開する。

第3楽章: アレグロ・モルト、口短調～口長調、4/4拍子。前楽章から一転して難技巧を伴う激しく劇的な楽想が次々と繰り出されるラプソディ風のフィナーレ。超高速で高音に達する音階風パッセージが緊張感を高め、曲が口長調に転じると伴奏付きカデンツァが繰り広げられる。ここでエルガーの考案したピツィカート・トレモロが用いられる。コーダではこれまでの動機が回想され、最後は壮大に曲を結ぶ。

萩谷由喜子 Text by Yukiko Hagiya

作曲: 1910年

初演: 1910年11月10日クイーンズホール、作曲家自身の指揮、フリッツ・クライスラー独奏

編成: 独奏ヴァイオリン、フルート2、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、コントラ・ファゴット1、ホルン4、トランペット2、トロンボーン3、チューバ1、ティンパニ、弦5部

ヨハネス・ブラームス(1833～1897)

交響曲 第2番 二長調 op.73

構想を立てて21年後の1876年、ついに交響曲第1番を完成させたブラームスは、これによってベートーヴェンの掣肘から解き放たれたのか、翌年に第2番を生み出し、6年をおいた1883年に第3番を、1885年に第4番を世に送った。本日演奏される第2番は4作中最も快調にペンの進んだ作品で、1877年夏、南オーストリア、ヴェルター湖畔の景勝地ペルチャッハ滞在中に大半を書き上げ、10月にバーデン・バーデン郊外リヒテンタールのクララ・シューマン宅に移って脱稿し、クララから大成功を予言された。山紫水明という形容がふさわしいペルチャッハをブラームスは非常に気に入って同年から3年連続で夏の避暑先を選び、78年の滞在時には本作と雰囲気の似通うヴァイオリン協奏曲も書き上げている。

1877年12月30日、本作はハンス・リヒター指揮ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団によって初演され、熱烈な喝采に呼応して第3楽章がもう一度演奏されるほどの大成功を収めた。おらかな曲想と牧歌的気分にあふれることから、「ブラームスの田園交響曲」とも呼ばれるが、ベートーヴェンの第6番とは異なり標題性はない。

第1楽章 アレグロ・ノン・トロツポ、二長調、3/4拍子。牧歌的な第1主題と憂いを帯びた第2主題によるソナタ形式の楽章。第1楽章冒頭で低音弦に現れる「レ・#ドレ」が全体の鍵となるモチーフ。そのあとすぐホルンが牧歌的な第1主題を吹き、これが発展してトロンボーンの和声で一段落すると、ヴァイオリンが雄大な歌を歌い出す。経過句のあと、「ブラームスの子守唄」の主題を短調化した第2主題をチェロが呈示する。

第2楽章 アダージョ・ノン・トロツポ、ロ長調、4/4拍子。まずチェロが物憂い主題を歌いだし、それにファゴットが応える。ホルンのしみじみとした調べも彩りを添える。

第3楽章 アレグレット・グラツィオーソ、ト長調、3/4拍子。オーボエから歌われる素朴な間奏曲風のA部分と焦燥感のあるスケルツォ風のB部分(プレスト・マ・ノン・アッサイ)が交互する。

第4楽章 アレグロ・コン・スピリト、二長調、2/2拍子。明るく陽気なフィナーレ。トランペットとトロンボーンが活躍するコーダで力強く結ばれる。

萩谷由喜子 Text by Yukiko Hagiya

作曲：1877年

初演：1877年12月30日ハンス・リヒター指揮、ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団

編成：フルート2、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン4、トランペット2、トロンボーン3、チューバ1、ティンパニ、弦5部

8/8 TUE.

軽井沢シリーズ 第2回 Karuizawa Series No.2

0歳からのコンサート Kids Concert

2023年8月8日(火) 11:00 軽井沢大賀ホール

Tue. 8th. August 2023, 11:00 Karuizawa Ohga Hall

東京交響楽団木管五重奏団 [木管五重奏]

原田 慶太楼 [お話]
山下 守 [監修]Tokyo Symphony Wind Quintet,
Wind quintetKeitaro Harada, Speaker
Mamoru Yamashita, Supervisor

- ・J.イibel: 3つの小品より 第1楽章アレグロ
- ・犬のおまわりさん
- ・アンパンマンのマーチ

- ・J.シュトラウスⅡ: エジプト行進曲
- ・ディズニーメドレー
- ・J.シュトラウスⅡ: 観光列車

オーケストラコンサート Orchestra Concert

2023年8月8日(火) 17:00 軽井沢大賀ホール

Tue. 8th. August 2023, 17:00 Karuizawa Ohga Hall

原田 慶太楼 [指揮]
竹澤 恭子 [ヴァイオリン]
宮田 大 [チェロ]
小林 彦成 [コンサートマスター]Keitaro Harada, Conductor
Kyoko Takezawa, Violin
Dai Miyata, Cello
Issey Kobayashi, Concertmasterブラームス: ヴァイオリンとチェロのための
二重協奏曲 イ短調 op.102(32')

I.アレグロ II.アンダンテ III.ヴィヴァーチェ・ノン・トロツポ

休憩(20')

梁邦彦:

Asa, The Capital of Asu(4')
Rainbow Leaves(3')
Wish To Fly(5')
Black Pearl(6')
Who I Am(4')ベートーヴェン: 交響曲 第7番
イ長調 op.92より 第1,4楽章(19')I.ポーコ・ソステヌート - ヴィヴァーチェ
IV.アレグロ・コン・ブリオJ.Brahms: Double Concerto
in A minor, op.102(32')

I. Allegro II. Andante III. Vivace non troppo

Intermission(20')

K. Ryo:

Asa, The Capital of Asu(4')
Rainbow Leaves(3')
Wish To Fly(5')
Black Pearl(6')
Who I Am(4')L.v.Beethoven: Symphony No.7
in A major, op.92 mov.1, mov.4(19')I. Poco sostenuto - Vivace
IV. Allegro con brio

- 主催/公益財団法人東京交響楽団 ●特別協賛/医療法人葵鐘会
- 後援/軽井沢新聞社、一般社団法人軽井沢観光協会、FM軽井沢、軽井沢町教育委員会

楽曲解説はP.12をご覧ください



©MASATOSHI YAMASHIRO

Keitaro Harada

Conductor

原田慶太楼 [指揮]

Associate Conductor
正指揮者

2021年4月東京交響楽団正指揮者に就任。各定期演奏会を始め、提携する川崎市、新潟市、こども定期、フェスタサマーミュージアなど多くの企画で指揮を務める。子供たちに本物の音楽を届ける事、日本人の作曲家の作品を世界に広めることをライフワークとしている。2020年からサヴァンナ・フィルハーモニックの音楽&芸術監督。オペラ指揮者としてアリゾナやノースカロライナ、ブルガリア国立歌劇場等でも活躍。またジョン・ウィリアムズのアシスタントも務める。2010年タングルウッド音楽祭で小澤征爾フェロー賞、米国ショルティ財団キャリア支援賞6度、23年には日本人初となるトップのコンダクター賞を受賞。2009年キャッソルトン・フェスティバルにロリン・マゼール招待で参加。第29回渡邊暁雄音楽基金音楽賞、第20回齋藤秀雄メモリアル基金賞受賞。

オフィシャル・ホームページ：kharada.com/
@Khconductor

8/8 TUE.

相澤政宏 Masahiro Aizawa [首席フルート奏者]

宮城県出身。東京音楽大学3年在学中の1989年に東京交響楽団のオーディションに合格、入団する。1991年日本フルートコンヴェンションコンクール3位入賞。1995年同団首席奏者に就任。以来同団とはソリストとしても共演を重ね好評を博している。現在、東京交響楽団首席フルート奏者。紀尾井ホール室内管弦楽団メンバー。東京音楽大学非常勤講師。日本フルート協会理事。アジアフルート連盟理事。

**浦脇健太** Kenta Urawaki [オーボエ奏者]

武蔵野音楽大学卒業。卒業後渡独しドイツ・ハンブルク音楽院修了。これまでにオーボエを大倉安幸、北島章、青山聖樹、インゴ・ゴリツキ、カレフ・クリュス、メラニー・ユング、トーマス・ローデ 各氏に、イングリッシュホルンを北村貴子氏に師事。ハンブルク国立歌劇場管弦楽団研修団員、ライン・ドイツオペラ、デュイスブルク歌劇場管弦楽団の契約団員を経て2020年に帰国。2021年より東京交響楽団オーボエ奏者を務める。

**エマニュエル・ヌヴェー** Emmanuel Neveu [首席クラリネット奏者]

フランス、ルーアン市生まれ。10歳よりクラリネットを始める。パリ国立高等音楽院、フランス国立ルーアン音楽院、リュエイク・マルメゾン音楽院を卒業。2000年日本クラリネットコンクール第1位などの受賞歴がある。

現在、東京交響楽団首席クラリネット奏者。国立音楽大学、洗足学園音楽大学非常勤講師。秋吉台ミュージック・アカデミー講師、ビュッフェ・クラボン・ジャパン契約講師。ドルチェ楽器東京アカデミー講師。

**福井 蔵** Osamu Fukui [首席ファゴット奏者]

15歳よりファゴットを始める。1986年に東京音楽大学を卒業し、卒業演奏会、読売新人演奏会等出演。第6回日本管打楽器コンクール入選。1989年東京交響楽団入団、1993年より同団首席奏者就任。2006年NHK名曲リサイタル出演。ソリストとして東京交響楽団とロッシェニ作曲ファゴット協奏曲や、モーツァルト、ヴィヴァルディ等協奏曲を共演。他にも、各オーケストラと多数共演している。指導者として、慶応ワグネルオーケストラ、江戸川女子高・中学校、文教大学等で後進の指導に当たる。

**上間善之** Yoshiyuki Uema [首席ホルン奏者]

沖縄県出身。沖縄県立芸術大学卒業、桐朋学園大学研究科終了。ホルンを故 安原正幸氏に師事。シュガーホール新人演奏会優秀賞受賞、第17回日本管打楽器コンクール、第71回日本音楽コンクール、第20回日本管打楽器コンクール、それぞれ入賞。仙台フィルハーモニー管弦楽団を経て、東京交響楽団首席奏者。洗足学園音楽大学非常勤講師。ジャパンホルンクインテット、アレキサンダーホルンアンサンブルジャパン、各メンバー。

**山下 守** Mamoru Yamashita

愛知県出身。名古屋大学医学部医学科、慶応義塾大学大学院経営管理理学研究科修士課程卒業。PhD医学博士(名古屋大学)、MBA 経営管理理学修士(慶応義塾大学)、日本産婦人科学会認定専門医。名古屋大学環境病院産婦人科勤務を経て、2007年医療法人葵鐘会を設立しCEOに就任。地域に根ざした産科医療施設を各所に整備、全国で類を見ない産婦人科医療グループとして年間約10,300件の分娩数を誇る。また日本の周産期医療のアウトパウンドを東南アジア、アフリカで進めている。趣味はクラシック音楽鑑賞。専門は周産期、婦人科腫瘍、麻酔科、医療経営学。2022年より一般社団法人 愛知室内オーケストラ理事就任。



Kyoko Takezawa

Violin

竹澤恭子 [ヴァイオリン]

1986年インディアナポリス国際ヴァイオリン・コンクールで優勝。ニューヨーク・フィル、シカゴ響、ロンドン響、ロイヤル・コンサートヘボウ管など、世界の主要オーケストラと共演。指揮者では、メータ、スラットキン、デュトワ、シャイー、ケント・ナガノ、エッセンバッハ、ブルムシュテット、小澤征爾らと共演している。国際コンクールの審査員も数多く務め、国内外の音楽祭にも出演を重ねる。

使用楽器は、1724年製アントニオ・ストラディヴァリウス。現在、東京音楽大学教授、桐朋学園大学特任教授。オフィシャル・ホームページ <http://www.kyokotakezawa.com/>

After winning the International Violin Competition of Indianapolis, Kyoko Takezawa has performed in the world's major venues with orchestras such as the Boston Symphony, Concertgebouw Amsterdam, under Seiji Ozawa and Zubin Mehta. As a highly accomplished chamber music performer, she was co-director of the Suntory Festival Soloists and is a regular guest at many music festivals around the world. She has recorded numerous CDs by Sony Music and BMG's RCA Victor Red Seal. As an educator she is teaching at Toho Gakuen School of Music and Tokyo College of Music and served as a jury at the major international violin competitions. She plays Antonio Stradivarius made in 1724.



©松永学

Dai Miyata

Cello

宮田 大 [チェロ]

2009年ロストロポーヴィチ国際チェロコンクールにおいて、日本人として初めて優勝。これまでに参加した全てのコンクールで優勝を果たしている。その圧倒的な演奏は、作曲家や共演者からの支持が厚く、世界的指揮者・小澤征爾にも絶賛され、日本を代表するチェリストとして国際的な活動を繰り返し広げている。

スイスのジュネーヴ音楽院卒業、ドイツのクロンベルク・アカデミー修了。

使用楽器は、上野製菓株式会社より貸与された1698年製A. ストラディヴァリウス“Cholmondeley”である。

In 2009, Miyata won the grand prix in the 9th Rostropovich Cello Competition. He is the very first Japanese competitor who won the grand prix in the world's most prestigious competition. Miyata played concertos with domestic and foreign various orchestras such as Deutsche Radio Philharmonie Saarbrücken Kaiserslautern, NHK Symphony Orchestra, Orchestre de Paris and Sinfonietta Frankfurt. And he is active in holding solo concerts, recital and chamber music with world famous musicians; Lynn Harrell, Gidon Kremer, Yuri Bashmet, Maxim Vengerov, Augustin Dumay and Eliahu Inbal. The mass media in the world are observing him very much. He is one of the best young cellist who attracts people's expectation in the present age.



©Nippon Columbia

8/8 TUE.

ヨハネス・ブラームス(1833～1897)

ヴァイオリンとチェロのための二重協奏曲 イ短調 op.102

ブラームスの協奏曲は、2曲のピアノ協奏曲、ヴァイオリン協奏曲、そしてこの二重協奏曲の4曲のみである。1878年完成のヴァイオリン協奏曲は親友のヴァイオリニスト、ヨーゼフ・ヨアヒム(1831～1907)の助言を受けながら書かれたもので、ヨアヒムによって初演され彼に献呈された。だがその後、ヨアヒム夫妻の離婚騒動が起きたとき、ブラームスが妻の肩を持ったと誤解したヨアヒムは彼に悪感情を抱くようになる。これを苦にしたブラームスは、ヴァイオリンのソロを伴う新作を書いて曲中にヨアヒムの意見を反映させることで和解したいと思いついた。そこで、構想中の5番目の交響曲をヴァイオリンとチェロのための二重協奏曲に変更してヨアヒムの助言を仰いだところ、ヨアヒムも過去のいきさつを水に流し、親身に協力してくれた。作曲の大半は1887年の夏、スイス中央部トゥーン湖畔滞在中に進行し、完成した曲は同年10月にブラームスの指揮、ヨアヒムのヴァイオリン、ロベルト・ハウスマン(1952～1909)のチェロによってケルンで初演されて大成功を収め、二人の和解の架け橋となった。2つの独奏楽器パートもオーケストラ・パートも緻密に書かれたこの作品は両ソリストにとっても指揮者にとってもたいへんな難曲だが、3人の名手が顔を合わせたときの演奏効果は比類がない。ソロ楽器を二つ重ねる書法にはバロックの合奏協奏曲の手法も採り入れられている。

第1楽章:アレグロ イ短調、4/4拍子、ソナタ形式。オーケストラによる力強い主題呈示が終わるとチェロが劇的な語りを展開する。それを木管がやさしくなだめたのちヴァイオリンがカデンツァ風楽句から入って二重奏となる。

第2楽章:アンダンテ 二長調、3/4拍子、3部形式。ホルンの響きで始まり、やがて両独奏楽器が甘くやさしい旋律をオクターヴで奏でる。

第3楽章:ヴィヴァーチェ・ノン・トロッポ イ短調、2/4拍子、ロンド形式。「木靴を履いて踊る田舎の舞曲」といわれる素朴なロンド主題によるフィナーレ。

萩谷由喜子 Text by Yukiko Hagiya

作曲:1887年

初演:1887年10月ケルンにて作曲者自身の指揮、ヨーゼフ・ヨアヒム、ロベルト・ハウスマン独奏

編成:独奏ヴァイオリン、独奏チェロ、フルート2、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン4、トランペット2、ティンパニ、弦5部

梁邦彦(1960～)

Asa, The Capital of Asu

架空のアジアを舞台とするオンラインゲーム「ASTA」。その舞台であるAsu地域の首都「Asa」のテーマ曲。アジアの自然の中で繁栄する古の大都市をイメージした楽曲。ビジュアル的にAVATORアジア版のようなイメージを思い描いた。

編成:フルート2、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン4、トランペット2、トロンボーン2、バス・チューバ1、ティンパニ、スレイベル、大太鼓、シンバル、タムタム、鉄琴、ハーブ1、弦5部

Rainbow Leaves

東京から本格移住する23年ほど前、テスト的に軽井沢で作曲をしていた。陽が傾き始めた秋の夕暮れ、差し込む光の加減で極彩色に変化する紅葉。音源のオーケストラはロンドンフィルハーモニー。

編成:フルート2、オーボエ1、イングリッシュホルン1、クラリネット2、ファゴット2、ホルン4、トランペット2、トロンボーン2、バス・チューバ1、ティンパニ、鉄琴、トライアングル、シンバル、ウィンドチャイム、ハーブ1、弦5部

Wish To Fly

少年時代に見た映画「E.T」自転車を漕ぐ少年が月に向かって舞いあがる光景が印象的だった。困難を越え前に進むピュアな意志と未来への希望がコンセプト。コロナで塞ぎがちだったここ数年に思いを馳せ、この公演のため新たにピアノレスの編曲を試みた。オリジナル音源録音はアビーロードスタジオでロンドンシンフォニーと。

編成:フルート2(ピッコロ持替1)、オーボエ1、イングリッシュホルン1、クラリネット2、ファゴット2、ホルン4、トランペット2、トロンボーン2、バス・チューバ1、ティンパニ、中太鼓、シンバル、ウィンドチャイム、トライアングル、タンバリン、鉄琴、ハーブ1、弦5部

Black Pearl

ゆめめく海底で静かに佇むBlack Pearl。華やかさとは対照的なそのいぶし銀の輝き、静かな力強さと情感の豊かさを感じさせる。そのための楽曲ではなかったが、後に海女のドキュメンタリー映画でメイン楽曲として使用された。

編成:フルート2(ピッコロ持替1)、オーボエ1、イングリッシュホルン1、クラリネット2、ファゴット2、ホルン4、トランペット2、トロンボーン2、バス・チューバ1、ティンパニ、シンバル、大太鼓、鉄琴、タムタム、ハーブ1、弦5部

Who I Am

2016より参加しているWOWOW&IPC共同制作によるパラリンピックドキュメンタリー「WHO I AM」のメインテーマ曲。2018米国、国際エミー賞にノミネートされた他、現在に至るまで国内多数の受賞歴を持ち、車椅子テニスの国枝選手も登場。本来ピアノメインの楽曲だが、今回の公演のため新たにピアノレスで再構築した。

編成:フルート2(ピッコロ持替1)、オーボエ1、イングリッシュホルン1、クラリネット2、ファゴット2、ホルン4、トランペット2、トロンボーン2、バス・チューバ1、ティンパニ、フィンガーシンバル、トライアングル、鉄琴、大太鼓、シンバル、中太鼓、シェイカー、ウィンドチャイム、チューブラーベル、ハーブ1、弦5部

梁 邦彦 Text by Kunihiko Ryo

8/8 TUE.

ルードヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン(1770～1827)

交響曲 第7番 イ長調 op.92より第1楽章、第4楽章

1808年に交響曲第5番と第6番を同時初演したあと、ナポレオン軍のウィーン侵攻による戦乱と戦中戦後の経済大混乱などに悩まされながらも、ベートーヴェンは創作を続けた。交響曲第7番は1811年から12年にかけて作曲されたもので、1813年4月20日に最大の後援者ルドルフ大公邸で非公開に、次いで同年12月8日にウィーン大学の講堂で公開初演された。公開初演では同時に初演された勇ましい勝利讃歌『ウェリントンの勝利』(戦争交響曲)のほうが圧倒的大喝采に包まれたといわれるが、この第7番も第2楽章がアンコールされるほどの成功を収めた。ワーグナーが「舞踏の賛歌」と、リストが「リズムの権化」と評したように誰でも思わず体で調子をとりたいくなるほど澁刺としたリズムに貫かれ、瑞々しい生命力にあふれていることがこの交響曲の大きな特徴で、現在でも彼の9つの交響曲のうちでも屈指の人気作となっている。交響曲は通常4つの楽章のうち中間2つの楽章のいずれかがアダージョ、アンダンテなどの落ち着いたテンポをとるが、第7番の中間楽章はアレグレットとプレストというように遅めのテンポの楽章がないことも異例である。しかし本日は2つの中間楽章を割愛し、冒頭楽章とフィナーレが演奏される。

第1楽章:序奏は**ポーコ・ソステヌート**、4/4拍子、イ長調。主部は**ヴィヴァーチェ**、6/8拍子。力強い主和音に続いてオーボエがソロを吹いたあと上昇音階によるフレーズが奏される序奏は62小節もある長大なもの。主部はフルートの楽しそうなソロから始まる。主部全体に付点音符のリズム動機が一貫して用いられている。最後はイ長調の主音ではなく第3音(嬰ハ音)で終わる。

第4楽章:**アレグロ・コン・ブリオ**、イ長調、2/4拍子。本来なら弱拍である2拍目に強いアクセントを置く特徴的なリズム動機が一貫して刻まれるフィナーレ。この躍動感にみちたリズムの上に色彩的な音楽が繰り広げられ、聴く者の陶醉感をかきたてながら楽しく高揚し最後は華麗に全曲を結ぶ。

萩谷由喜子 Text by Yukiko Hagiya

作曲:1811～12年

初演:1813年12月8日ウィーンにて

編成:フルート2、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン2、トランペット2、ティンパニ、弦5部

8/19 SAT. 20 SUN.

第713回 定期演奏会

2023年8月19日(土) 18:00 サントリーホール

Subscription Concert No.713

Sat. 19th. August 2023, 18:00 Suntory Hall

新潟定期演奏会 第132回

2023年8月20日(日) 17:00 “りゅうとぴあ”コンサートホール

Niigata Subscription Concert No.132

Sun. 20th. August 2023, 17:00 Ryutopia Concert Hall

鈴木 優人 [指揮]

中江 早希 [ソプラノ]

澤江 衣里 [ソプラノ]

櫻田 亮 [テノール]

東響コーラス [合唱] (8/19)

にいがた東響コーラス [合唱] (8/20)

辻 博之 [合唱指揮]

小林 壱成 [コンサートマスター]

Masato Suzuki, Conductor

Saki Nakae, Soprano

Eri Sawae, Soprano

Makoto Sakurada, Tenor

Tokyo Symphony Chorus, Chorus (8/19)

Niigata Tokyo Symphony Chorus, Chorus (8/20)

Hiroyuki Tsuji, ChorusMaster

Issey Kobayashi, Concertmaster

メンデルスゾーン:交響曲 第5番 二短調
op.107 「宗教改革」(27')

I. アンダンテ - アレグロ・コン・フォーク

II. アレグロ・ヴィヴァーチェ

III. アンダンテ

IV. コラール [神はわがやぐら] アンダンテ・コン・モート -
アレグロ・ヴィヴァーチェ - アレグロ・マエストロ

休憩(20')

メンデルスゾーン:交響曲 第2番 変ロ長調
op.52 「讃歌」(65')

I. シンフォニア

II. 合唱「ソプラノ・ソロ」[すべて息するものよ、主を讃えよ!]

III. テノール・ソロ「語れ、主によって救われた者たちよ」

IV. 合唱「語れ、主によって救われた者たちよ」

V. 二重唱と合唱「私は主を待ち焦がれ」

VI. テノール・ソロ、ソプラノ・ソロ「死の縄目が私たちをから取っていた」

VII. 合唱「夜は去った」

VIII. 合唱「さあ、すべての者よ、神に感謝せよ」

IX. ソプラノ・ソロ、テノール・ソロ「それゆえ私は自分の歌で」

X. 終曲合唱「諸国の人々よ、主に栄光と権力をあずけなさい」

F.Mendelssohn : Symphony No.5
in D minor op.107 “Reformation”(27')

I. Andante - Allegro con fuoco

II. Allegro vivace

III. Andante

IV. Choral: Ein' feste Burg ist unser Gott, Andante con moto -
Allegro vivace - Allegro maestoso

Intermission(20')

F.Mendelssohn : Symphony No.2
in B flat major op.52 “Lobgesang”(65')

I. Sinfonia

II. Alles, was Odem hat, lobe den Herrn

III. Saget es, die ihr erlöset seid

IV. Saget es, die ihr erlöset seid

V. Ich harrete des Herrn

VI. Stricke des Todes hatten uns umfangen

VII. Die Nacht ist vergangen

VIII. Nun danket alle Gott

IX. Drum sing ich mit meinem Liede

X. Ihr Völker! bringet her dem Herrn Ehre und Macht!

●主催 / 公益財団法人東京交響楽団(8/19)、公益財団法人新潟市芸術文化振興財団(8/20)

●助成 / 文化庁文化芸術振興費補助金 舞台芸術等総合支援事業(創造団体支援) | 独立行政法人日本芸術文化振興会(8/19)、公益財団法人朝日新聞文化財団(8/19)
文化庁文化芸術振興費補助金(舞台芸術等総合支援事業) | 独立行政法人日本芸術文化振興会(8/20)

新潟定期演奏会は、新潟市からの補助金の交付を受けて実施しています。

楽曲解説はP.20をご覧ください



8/19 SAT. 20 SUN.



©Marco Borggreve

Masato Suzuki

Conductor

鈴木優人 [指揮]

東京藝術大学卒業及び同大学院修了。オランダ・ハーグ王立音楽院修了。第71回芸術選奨文部科学大臣新人賞、第18回齋藤秀雄メモリアル基金賞、第18回ホテルオークラ音楽賞、第29回渡邊暁雄音楽基金音楽賞受賞。バッハ・コレギウム・ジャパン(BCJ)首席指揮者、読売日本交響楽団指揮者/クリエイティブ・パートナー、アンサンブル・ジェネシス音楽監督。23年4月より関西フィルハーモニー管弦楽団首席客演指揮者に就任。鈴木優人プロデュース・BCJオペラシリーズ、モンテヴェルディ：歌劇《ポッペアの戴冠》(2017)、ヘンデル：歌劇《リナルド》(2020)を上演、後者は第19回佐川吉男音楽賞を受賞。

NHK-FM「古楽の楽しみ」にレギュラー出演。録音はBCJとのJ. S. バッハのチェンバロ協奏曲集(BIS)、タメスティとのデュオ(Harmonia Mundi)など多数。調布国際音楽祭エグゼクティブ・プロデューサー。九州大学客員教授。

Masato Suzuki is Principal Conductor of Bach Collegium Japan (BCJ), Conductor and Creative Partner of Yomiuri Nippon Symphony Orchestra, Music Director of Ensemble Genesis as well as principal guest conductor of Kansai Philharmonic Orchestra. He has conducted orchestras including NHK Symphony Orchestra and Hamburg Symphony Orchestra. In 2017 and 2020, he produced and presented "Masato Suzuki Produces BCJ Opera Series". Monteverdi's "L'Incoronazione di Poppea" (2017) and Händel's "Rinaldo" (2020) earned high praise as baroque opera's innovation. He has made debut at New National Theatre in 2022 with Gluck's "Orfeo et Euridice".

He released numerous CDs including J.S. Bach's Concerto for Harpsichord and Strings with BCJ (BIS) and a duo with the violist Antoine Tamestit (Harmonia Mundi). Executive Producer of the Chofu International Music Festival, stage direction, planning and production, and composition, Suzuki's boundary-less activities are expected much from various quarters. Suzuki is a visiting professor at Kyushu University.

Saki Nakae

Soprano

中江早希 [ソプラノ]

北海道出身。北海道教育大学岩見沢校芸術課程音楽コース声楽専攻卒業。東京藝術大学修士課程音楽研究科声楽専攻独唱科、同大学院博士後期課程を修了。在学時大学院アカンサス賞、三菱地所賞受賞。旭川新人音楽賞、第27回道銀芸術文化奨励賞受賞。レパートリーは宗教音楽からオペラ、歌曲や現代音楽など国内外でのソリストを務めるだけではなく、ドラマやゲーム音楽など多くの作品にヴォーカルとして携わる。また、北海道上川郡鷹栖町ふるさと応援大使としても活動し、地域と文化の発展に力を入れている。洗足学園音楽大学非常勤講師。



Eri Sawae

Soprano

澤江衣里 [ソプラノ]

島根県益田市出身。国立音楽大学卒業。東京藝術大学大学院修士課程及び博士課程修了。英国歌曲研究により博士号取得。第79回日本音楽コンクール2位入賞。第11回東京音楽コンクール最高位。声楽を永井和子、佐藤峰子に師事。2006年よりバッハ・コレギウム・ジャパン (BCJ) のアンサンブル・メンバーとして研鑽を積む。バッハ《口短調ミサ曲》、ロイド＝ウェバー《レクイエム》など後期バロックから現代まで幅広いレパートリーを持つコンサート歌手として活躍している。島根県ふるさと親善大使・遣島使。オフィシャル・ホームページ：<https://www.eri-sawae.com>



Makoto Sakurada

Tenor

櫻田 亮 [テノール]

東京藝術大学卒業。同大学院修了。ブルージュ国際古楽コンクール第2位(声楽最高位)受賞。国内外の古楽アンサンブルやモダン・オーケストラと多数共演の他、クレモナ音楽祭「ウリッセの帰還」、エジンバラ音楽祭「オルフェオ」等オペラの舞台でも活躍。バッハ・コレギウム・ジャパン声楽メンバーとして海外ツアー、録音にも参加、「マタイ受難曲」「エリヤ」等で好評を博す。CD「あなたはすべて私のものであったー17世紀イタリアの恋歌ー」リリース。日本イタリア古楽協会運営委員長として、イタリア・バロック音楽の普及に務めている。東京藝術大学教授。二期会会員



8/19 SAT. 20 SUN.

Hiroyuki Tsuji

Chorusmaster

辻 博之 [合唱指揮]



東京藝術大学音楽学部声楽科在学中からオペラ指揮者としての研鑽を積み、2017年オーケストラ・アンサンブル金沢定期公演にデビュー。九州交響楽団、読売日本交響楽団、東京フィルハーモニー交響楽団、大阪フィルハーモニー交響楽団、札幌交響楽団等と共演を重ねる気鋭の指揮者である。

近年のオペラ公演は『音楽現代』、イギリス『オペラ』誌等で紹介され注目を浴びる他、ディズニー・オン・クラシックや、赤ちゃんと楽しむコンサートなど「音楽を未来と繋ぐ活動」にも力を注ぎ続けている。

Tokyo Symphony Chorus

Chorus

東響コーラス [合唱] (8/19)

1987年に東京交響楽団専属のアマチュア混声合唱団として創立。「東京交響楽団と一体の演奏をし、より質の高い合唱付きオーケストラ曲のコンサートを提供する」ことを目的としている。指導には、演奏する楽曲の背景や歌詞に使用されている言語に精通した合唱指揮者、発声指導者、伴奏ピアニスト、言語指導者を招いている。公演毎に出演者を決定するオーディションを行うことで、常に演奏の質を高めている。2020年には第32回ミュージック・ペンクラブ音楽賞「室内楽・合唱部門」受賞。

コロナ禍によりしばらくの活動休止期間を経て、2021年9月「名曲全集」にて東京交響楽団と2年ぶりの共演。音楽監督ジョナサン・ノットと2年半ぶりの共演となった2022年5月「ウォルトン：ベルシャザールの饗宴」、同年12月「ベートーヴェン：交響曲第9番」は絶賛を博した。

Niigata Tokyo Symphony Chorus

Chorus

にいがた東響コーラス [合唱] (8/20)

東京交響楽団新潟定期演奏会における合唱付オーケストラ曲への共演を目的に、1998年に発足。これまでに、モーツァルト《レクイエム》《戴冠ミサ》、ベートーヴェン《第九》《ミサ・ソレムニス》、マーラー《千人の交響曲》《復活》、フォーレ《レクイエム》、ブラームス《ドイツ・レクイエム》、オルフ《カルミナ・ブラーナ》、ラヴェル《ダフニスとクロエ》、ベルリオーズ《テ・デウム》、メンデルスゾーン《讃歌》ほか数多くの公演に出演している。

東響コーラス メンバー表

●合唱・発声指導 辻 博之						
●稽古ピアニスト 古瀬安子、松岡なぎさ						
●委員長 岡野一哉 (Bas.)						
●副委員長 鳥居順子 (Sop.) 堀 浩史 (Bas.)						
●パートリーダー Sop. (正) 遠藤由理 (副) 岡 邦子 Alt. (正) 齋藤由紀 (副) 伊藤晴子 Ten. (正) 内山誠彦 (副) 枇杷高志 Bas. (正) 水野 敬	Soprano 石井真穂 石井 恵 伊藤貴子 岩元邦子 遠藤由理 大貫由香 岡 邦子 小田切明子 小野寺美和 金杉知子 川崎仁美 草野真由美 後藤紀子 小林真記 五味川裕美 佐藤かえで 佐藤由紀子 鈴木育代 鈴木美和 瀬沼紀子 高井百合恵 武田美香 鳥居順子 仁平朋子 林 汀	平川暢子 藤記富子 本行佳奈 真下陽子 増淵由佳 森田恵子 森本由希 山下由美子 山田美生子 山之内文子 吉井真祈	Alto 甘利久美子 伊藤晴子 伊藤弥緒乃 浦上珠絵 大塚絵梨花 尾崎いずみ 尾島夕里 尾田雅代 小名雅恵 加藤啓子 菊池万美子 木内道子	後藤幸子 小林朋子 小張さゆり 齋藤由紀 坂元靖子 坂本タカ子 清水穂名美 関口あずみ 高田恵子 竹内あゆみ 谷野仁美 筒井敬子 都築靖子 中島奏子 藤崎幸子 藤田 栄 堀西香織 真栄城潔子 水越睦美 山下裕美 鏡水みお 吉井久美子 吉岡美佳子 吉村美恵子 渡邊朋子	Tenor 有馬 猛 内山誠彦 大崎 純 小川 徹 小川英樹 奥貫壮史 奥村博康 木村 貴 高塚裕之 竹内邦夫 竹田 忍 竹本大祐 佃 浩一 永友伴憲 中原裕幸 西 宏隆 服部俊治 塙 大二 枇杷高志 穂谷岳征 増淵 隆 馬橋達成 水谷晴彦 和田 敏	Bass 荒木康司 安藤志津夫 岡野一哉 菊池 靖 木内正則 河野 愛 杉山慎二 清木 達 竹内誠治 土井 丈 富岡 光 西村 真 早川克己 平川尚義 堀 浩史 水口 望 水口敏也 水野 敬 宮坂知明 宮寺 昇 矢野 通 山崎弘光 山之内達也 横尾 優

にいがた東響コーラス メンバー表

●合唱指揮 辻 博之					
●稽古ピアニスト 梅津幹子 齋藤愛子 八子真由美 渡部乃亜					
●コーラス委員 委員長: 漆山律直 副委員長: 永井道子 西島理恵 会計: 大石由利子	Soprano 秋山敦美 荒川洋子 飯島淳子 石田茉莉子 石塚佐栄子 石堂ナオ 伊東美和子 李 玟承 今成三枝子 入西宏子 梅浦森子 大石由利子 大田和代 太田真理 狹山倫子 坂山直子 金子英子 川崎ノリ 菊地史子 久住春枝 熊谷雅子 倉林敬子	小林映子 佐藤彰子 佐藤富美子 田中恵津子 永井道子 仲野麻子 長谷川さつき 林 頼子 福井諭美 横田千恵子 宮木素子 村澤康子 山田正子 吉田美紀 米谷由起子	大橋治子 岡崎恵子 岡橋麻衣 小川安江 柏崎 薫 加藤葉子 小島美香子 小林由希恵 近 小夜子 近藤美弥子 笹川規子 佐藤照子 佐藤文子 鈴木真里 関根京子 高橋幸恵 鶴巻美和子 富田佳代 中尾美紀 中村昌子 南渡理加 西島理恵 西山益代	林 幸恵 日野久美子 廣河香納子 藤崎久美子 本間暁美 湯田靖子 若佐フジ 鷲尾伴子 渡辺菜緒美 渡邊美和子 渡辺 恵 渡辺ルツ子	若佐 茂 Bass 天野武博 荒井健次 漆山律直 金子一郎 川口 修 栗川 治 笹川 基 塩原昭夫 高口和則 田村和豊 津川達雄 津久井淳 永井明彦 長谷川均 早川 徹 保坂律男 諸田哲也 山口光雄 山田 進 渡辺浩司
●パートリーダー Sop. 伊東美和子 横田千恵子 Alt. 佐藤文子 西山益代 Ten. 松崎泰治 Bas. 荒井健次 金子一郎		Alto 浅井由記 石山夏代子 池田玲子 伊藤智美 岩佐由美子 遠藤紀子	Tenor 大野 昇 笹川富士雄 清水 仁 鈴木良明 中村尚道 松崎泰治 松縄俊一 村山賢一 山崎俊雄		

8/19 SAT. 20 SUN.

フェリックス・メンデルスゾーン(1809～1847)

交響曲 第5番 二短調 op.107 「宗教改革」

1830年「アウグスブルク信仰告白」の成立から三百周年を記念する式典のため作曲された。この時期にメンデルスゾーンは、J・S・バッハ《マタイ受難曲》をバッハ死後初めて公開で演奏しており、「第5番」の節々にその影響が伺える。結局「第5番」は式典での演奏が実現せず、楽曲成立の背景にあった宗教的な文脈とは切り離され、1832年に初演されたが、当時の評判は芳しくなかったようである。作曲家の死後の出版となったものの、二十歳の作曲家の才気に満ちた意欲的な楽曲である。

第1楽章 アンダンテ 二長調 4/4 グレゴリオ聖歌を感じさせる上昇音形から始まり、それにトロンボーン含む管楽器の厳かなコラール風の音形が続く。その後、弦楽器によって静かに現れるのは、ワーグナー《パルジファル》でも有名な「ドレスデン・アーメン」である。アレグロ 二短調ではそれまでの静的な雰囲気が一転し、動的な第一主題、続いて柔らかな旋律の第二主題が提示される。再現部の導入として再びドレスデン・アーメンが現れると、収束へと向かっていく。

第2楽章 アレグロ・ヴィヴァーチェ 変口長調 3/4 第1楽章の宗教音楽的な厳かさとは対照的に、民衆による祝祭を感じさせる曲調のスケルツォである。途中に現れるフルートのトリルなどの装飾は、旗やリボンの音画とともとれる。

第3楽章 アンダンテ ト短調 2/4 第一ヴァイオリンによって、歌曲的な旋律が奏でられる。レチタティーヴォのような中間部を経て、再び冒頭のモチーフを繰り返しつつ閉じる。

第4楽章 コラール アンダンテ・コン・モート 二長調 4/4 冒頭にルターのコラール「神はわがやぐら(Ein' feste Burg ist unser Gott)」がフルートによって提示される。フルートは奏者として知られていたルター自身も暗示している。コラールのモチーフが変奏され、他の楽器も加わっていき、第一主題・第二主題が現れる。フガートを経て、ファンファーレによって導かれたコラール主題が堂々と現れ閉じられる。

大矢未来 Text by Miku Oya

作曲：1829～1830年

初演：1832年11月15日 ベルリン

編成：フルート2、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、コントラ・ファゴット1、セルパン1、ホルン2、トランペット2、トロンボーン3、ティンパニ、弦5部

フェリックス・メンデルスゾーン(1809～1847)

交響曲 第2番 変ロ長調 op.52 「讃歌」

この交響曲は、活版印刷技術誕生400年を記念したグーテンベルク祝祭のために1839年ライプツィヒ市から《祝典歌》と共に注文された。ドイツ各地で開かれた祝祭だが、書籍・印刷の街ライプツィヒではひととき盛大だった。初日に伝説のマイスタージンガーであるハンス・ザックスを題材とした大衆的な音楽劇、2日目の式典では《祝典歌》、最終日に満員の聖トマス教会で《交響曲 第2番》が演奏された。グーテンベルクの技術革新はルターと宗教改革、さらに啓蒙主義とも結び付けられ、祝祭は宗教的・愛国的な色合いを帯びていたのである。

この楽曲の「闇から光へ」というテーマは、当時の啓蒙思想とも「人々を迷信から解放し認識へと導いた」といわれるグーテンベルク聖書とも結びつく。詩篇を中心とする聖書からの詩句はメンデルスゾーン自身によって選択された。合唱付き交響曲という点で当時からベートーヴェンの《交響曲 第9番》と比較されてきたが、ヘンデルやシューベルトら他の様々な作品からの影響も指摘されており、メンデルスゾーンの指揮者としての活動の影響もまたうかがえる。

第1曲 シンフォニア

【序奏 マエストロ・コン・モート 変ロ長調 4/4】宗教的な雰囲気を持つトロンボーンが奏するモットー動機にオーケストラが応答する。この動機は繰り返し様々なところで変奏され全体に統一感を与える。

【第1楽章 アレグロ 変ロ長調 4/4】付点のリズムと跳躍音程が特徴の第1主題から対位的に変奏されたモットー動機を経て、クラリネット、ファゴット、ヴィオラによる柔らかな第2主題が現れる。モットー動機と第1主題が対位的に繰り返し変奏され徐々に弱まっていき、再び現れた第2主題も弱まり、第1主題がトロンボーン以外の全てのパートによってダイナミックに演奏され、途切れなく再現部へ。提示部の3分の1ほどの長さしかなく、主題がそれぞれパラフレーズされる。モットー動機がはっきりと現れると静かな調子になる。

クラリネットのソロに導かれて【第2楽章 アレグレット・ウン・ポコ・アジタート ト短調 6/8】が始まり、第1ヴァイオリンとチェロが主題を提示する。オーケストレーションは節約されたもので、主にチェロが導く旋律にオーボエ、クラリネット、ファゴットが寄り添う。中間部では弦楽器によるト長調の主題に続き、管楽器によるモットー動機の

8/19 SAT. 20 SUN.

暗示を含むコラールが加わって二重に演奏され、ト短調のコーダで主題がパラフレーズされる。

〔第3楽章 アダージョ・レリジオーソ 二長調 2/4〕二長調の民謡的な聖歌を思わせる弦楽器の優美な旋律は、後にクラリネットとファゴットにも引き継がれて、この後にも現れる様々な調性を行き来しながらトゥッティにたどり着き、徐々に消えていく。

第2曲～第10曲 カンタータ

〔第2曲 二短調 4/4〕ではモットー動機から成る前奏に導かれて、合唱によって「すべて息するものよ、主を讃えよ」が繰り返され、ソプラノ独唱による新しい旋律を挟みながら女声合唱との掛け合いとなる。

〔第3曲 ト短調 4/4〕はバッハの受難曲を思わせるテノールのレチタティーヴォとアリアである。憂いを帯びた暗い調子で「主は私たちが苦境で流す涙を数えていて下さる」という詩篇の言葉が繰り返され、その雰囲気は〔第4曲 ト短調 4/4〕の合唱にも引き継がれる。

〔第5曲 変ホ長調 2/4〕は雰囲気が少し明るくなり、ホルンソロと2人のソプラノによる掛け合いが特徴である。

〔第6曲 ハ短調 3/4〕はオペラの一場面のようなテノールのレチタティーヴォであり、闇の恐怖に惑い夜明けを待望する声と「師よ、夜はもう去って行くのですか?」という問いが何度も繰り返される。ソプラノの返答「夜は去ったのだ」から〔第7曲 二長調 6/8〕への移行は朝日が射すようにドラマティックな転換である。

無伴奏で始まる〔第8曲 ト長調 4/4〕「さあ、すべての者よ、神に感謝せよ」は《祝典歌》のコラールと同じものが使われており、第1曲のアレグレットからの引用もある。

最後の独唱である〔第9曲 ト長調 2/4〕は、穏やかなテノールで始まるが、ソプラノの二短調で不安な調子になり、無伴奏で歌われる「主の名前を呼び」から再び穏やかな調子に戻っていく。

〔第10曲 変口長調 4/4〕はバスからソプラノへと順番に音域が上昇していく祝典的なフーガで始まる。短い間奏を経て合唱の声が合わさり「万物よ、主に感謝せよ!」が高らかに歌われ再びフーガへ。冒頭の堂々たるモットー動機が繰り返され、第2曲で繰り返された詩行がモットー動機にのせて歌われる。

大矢未来 Text by Miku Oya

作曲：1839年～1840年

初演：1840年6月25日・改訂稿12月3日 ライプツィヒ（作曲家自身による指揮）

編成：ソプラノ独唱2、テノール独唱、フルート2、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン4、トランペット2、トロンボーン3、ティンパニ、オルガン、弦5部、混声合唱

メンデルスゾーン《讃歌》／

[歌詞対訳]

F. Mendelssohn “Lobgesang,,

訳：三ヶ尻 正

1. Sinfonia

(Maestoso con moto - Allegro)
(Allegretto un poco agitato)
(Adagio religioso)

1. 器楽

(荘重に動きをもって～軽快に)
(やや軽快に 少々激しく)
(ゆっくりと敬虔に)

2. Chor und Sopran solo

Chor
(Allegro moderato maestoso – Animato)
Alles, was Odem hat, lobe den Herrn!
Halleluja, lobe den Herrn!

(Allegro di molto)
Lobt den Herrn mit Saitenspiel,
lobt ihn mit eurem Liede!
Und alles Fleisch lobe seinen heiligen Namen.
Alles, was Odem hat, lobe den Herrn!

Frauenchor und Sopran Solo
(Molto più moderato ma con fuoco)
Lobe den Herrn, meine Seele,
und was in mir ist, seinen heiligen Namen.
und vergiß es nicht
was er dir Gutes getan.

2. 合唱、ソプラノ・ソロ

合唱
(おだやかな軽快さで 荘重に - 活き活きと)
すべて息するものよ、主を讃えよ！
ハレルヤ、主を讃えよ！

[詩篇150編から]

(とても軽快に)
豎琴を鳴らして主を讃えよ！
歌で主を讃えよ！ [詩篇33編から]
肉体あるものよ、主の聖なる名を讃えよ。 [詩篇145編から]
すべて息するものよ、主を讃えよ！

女声合唱とソプラノ・ソロ
(とてもおだやかなテンポで しかし情熱をもって)
私の魂よ、主を讃えよ、
そして私の内なるものよ、主の聖なる名を讃えよ！
そして主がお前にして下さった善きことを
忘れることのないように！

[詩篇103編から]

3. Tenor Solo

(Recitativo)
Saget es, die ihr erlöst seid durch den Herrn,
die er aus der Not errettet hat,
aus schwerer Trübsal, aus Schmach und Banden,

die ihr gefangen im Dunkeln waret,
alle, die er erlöst hat aus der Not.
Saget es! Danket ihm und rühmet seine Güte!

(Allegro moderato)
Er zählt unsre Tränen in der Zeit der Not.

Er tröstet die Betrübten mit seinem Wort.
Saget es! Danket ihm und rühmet seine Güte.

3. テノール・ソロ

(レチタティーヴォ)
語れ、主によって救われた者たちよ、
苦境から主が助け出して下さった者たちよ、
お前たちを闇に囚えていた重い苦難から、
恥辱と束縛から、
主が助け出して下さった者たちよ、
苦境から主が救い出した者たちよ、
そのことを語れ！ 主に感謝し、主の善を宣べ広めよ！
[詩篇107編から]

(おだやかな軽快さで)
主は私たちが苦境で流す涙を数えていて下さる。
[詩篇56編から]
主は悲しむ者たちをご自分のことばで慰めて下さる。
そのことを語れ！ 主に感謝し、主の善を宣べ広めよ。
[詩篇107編から]

4. Chor

(A tempo moderato)
Sagt es, die ihr erlöset seid
von dem Herrn aus aller Trübsal.
Er zählt unsre Tränen in der Zeit der Not.

4. 合唱

(おだやかなテンポで)
語れ、主によって救われた者たちよ、
あらゆる苦難から主によって救われた者たちよ、
主は私たちが苦境にいるときの涙を数えていて下さる。
[詩篇107、56編から]

8/19 SAT. 20 SUN.

5. Duett Sopran I und II, Chor

(Andante)

Ich harrete des Herrn, und er neigte sich zu mir
und hörte mein Flehn.
Wohl dem, der seine Hoffnung setzt auf den Herrn!
Wohl dem, der seine Hoffnung setzt auf ihn!

5. 二重唱 (ソプラノ I & II) と合唱

(歩くような速さで)

私は主を待ち焦がれていました。すると主は
私に顔(うなず)き、私の懇願を聞いて下さった。
主に望みを置くものに幸いあれ!
彼に望みを置くものに幸いあれ!

[詩篇40編から]

6. Tenor Solo, Sopran Solo

Tenor Solo (Allegro un poco agitato)

Stricke des Todes hatten uns umfassen,
und Angst der Hölle hatte uns getroffen,
wir wandelten in Finsternis.

Er aber spricht: Wache auf!
der du schläfst, stehe auf von den Toten,
ich will dich erleuchten.

(Allegro assai, agitato)

Wir riefen in der Finsternis:
Hüter, ist die Nacht bald hin?

(a Tempo I^o moderato)

Der Hüter aber sprach:
Wenn der Morgen schon kommt
so wird es doch Nacht sein;
wenn ihr schon fraget,
so werdet ihr doch wieder kommen
und wieder fragen:
Hüter, ist die Nacht bald hin?

Sopran Solo

(Sostenuto)

Die Nacht ist vergangen!

6. テノール・ソロ、ソプラノ・ソロ

テノール・ソロ (軽快に 少々激しく)

死の縄目が私たちをからめ取っていた。
そして私たちは地獄への恐れに直面していた。
私たちは闇の中をさまよっていたのだ。

[詩篇116編から]

しかし主は言われた: 目覚めよ!
眠っている者よ、死者の中から立ち上られ、
私がお前を照らしてあげよう、と。

[エフェソ書5から]

(とても速く 激しく)

私たちは闇の中で叫んだ:
「師よ、夜はもう去って行くのですか?」と。

(もとのテンポで おだやかな速さで)

しかし師はおっしゃった:
「もし朝が近づいているとしても
今はまだ夜であろう。
君たちは、また訊ねたいのであれば、
再びここに来て、
同じように訊ねるがよい:
『師よ、夜はもう去って行くのですか?』と。」

ソプラノ・ソロ

(音を保って)

夜は去ったのだ!

[イザヤ書21から]

7. Chor

(Allegro maestoso e molto vivace)

Die Nacht ist vergangen,
der Tag aber herbei gekommen.
So laßt uns ablegen die Werke der Finsternis
und anlegen die Waffen des Lichts,
und ergreifen die Waffen des Lichts!

Die Nacht ist vergangen.
Der Tag ist gekommen.
Die Nacht ist vergangen.

7. 合唱

(軽快かつ荘重に そしてとても速く)

夜は去った、そして
朝がやってきた。
さあ闇が残したものを脱ぎ捨てよう!
そして光の武具を身に着け、
光の武器を手にとろう!

夜は去った。
朝がやってきた。
夜は去ったのだ。

[ロマ書13から]

8. Choral

Chor

(Andante con moto)

Nun danket alle Gott
mit Herzen, Mund und Händen,
der sich in aller Not

8. コラール (讚美歌)

合唱

(歩くような速さで 動きをもって)

さあ、すべての者よ、神に感謝せよ、
心と口と手をもって。
あらゆる苦境で、恩寵をもって

will gnädig zu uns wenden,
der so viel Gutes tut,
von Kindesbeinen an
uns hielt in seiner Hut,
und allen wohlgetan.

(Un poco più animato)

Lob, Ehr' und Preis sei Gott,
dem Vater und dem Sohne
und seinem heil'gen Geist
im höchsten Himmelsthronen.
Lob dem dreiein'gen Gott,
der Nacht und Dunkel schied
von Licht und Morgenrot,
ihm danket unser Lied.

私たちの方を向いて下さり、
多くの善きことをして下さる神に感謝せよ。
たとえ子供の手肢であろうと、
私たちをご自身のご加護のもとに守って下さり
あらゆる善きことをして下さった神に感謝せよ。

(少し より生き生きと)

讚美と栄光と称賛とが神に向けられますように。
いと高き天の玉座に座っておられる
父であり、子であり、
その聖霊でもある方に。
三位一体の神に讚美を。
夜と闇を、
光と暁から分けられた方を、
私たちの歌で讚えよう。

[マルティン・リンカルト詞、ヨーハン・クリューガー曲のコラール(1647)
詞はシラ書50: 24-26からの派生]

9. Sopran solo, Tenor solo

(Andante sostenuto assai)

Drum sing ich mit meinem Liede
ewig dein Lob, du treuer Gott!
und danke dir für alles Gute,
das du an mir getan.

Und wandl' ich in Nacht und tiefem Dunkel,
und die Feinde umher stellen mir nach,

so rufe ich an den Namen des Herrn,
und er errettet mich nach seiner Güte.

9. ソプラノ・ソロ、テノール・ソロ

(歩くような速さで しっかり音を保って)

それゆえ私は自分の歌で、永遠に
誠実な神、あなたを讃えて歌います！
そしてあなたが私に下さった
善きことすべてに感謝します。

夜、私が深い闇の中をさまよい、
敵が私を待ち伏せているときには

私は主の名前を呼びます。すると主は
よき御恵(みごころ)で私を救い出して下さいます。

[出典未詳・作曲者作か]

10. Schlußchor

(Allegro non troppo)

Ihr Völker! bringet her dem Herrn
Ehre und Macht!
Ihr Könige! bringet her dem Herrn
Ehre und Macht!
Der Himmel bringe her dem Herrn
Ehre und Macht!
Die Erde bringe her dem Herrn
Ehre und Macht!

(Più vivace)

Alles danke dem Herrn!
Danket dem Herrn und rühmt seinen Namen
und preiset seine Herrlichkeit!
Danket dem Herrn und preiset ihn!

(Maestoso come l°)

Alles, was Odem hat, lobe den Herrn,
Halleluja, lobe den Herrn!

10. 終曲合唱

(快速に ただし過度にならないように)

諸国の人々よ、
主に栄光と権力をあずけなさい！
王たちよ、
主に栄光と権力をあずけなさい！
天よ、
主に栄光と権力をあずけなさい！
地よ、
主に栄光と権力をあずけなさい！

(より速く)

万物よ、主に感謝せよ！
主に感謝し、主の名をほめたえ
主の栄光を讚美せよ！
主に感謝し、主を讚美せよ！

[歴代誌上16、詩篇96編から]

(もとのように荘重に)

息するものすべてよ、主を讚えよ！
ハレルヤ、主を讚えよ！

[詩篇150編から]

許可のないコピー、転載は法律で禁じられています



Symphony Lounge [シンフォニー・ラウンジ]

ややこしい メンデルスゾーンの 交響曲の番号付け

星野宏美(音楽学)

メンデルスゾーンの交響曲は一般に5作が知られているが、その番号付けがわかりにくいと評判悪い。問題なくしっくりくる番号は、15歳の時に作曲された第1番のみである。ポピュラーな代表作である第3番「スコットランド」と第4番「イタリア」は、番号に反し、後者(第4番)が20歳代前半のメンデルスゾーンの瑞々しい感性に溢れているの

に対し、前者(第3番)には30歳を越え、巨匠然とした作曲法の深化が見られる。さらに面倒なのが今回の演奏曲目の第2番「讃歌」と第5番「宗教改革」だ。はじめに結論を書こう。近い将来、メンデルスゾーンの交響曲第2番、第5番という呼称はなくなるだろう。いや、研究の最前線では、第2番、第5番、加えて第4番は既に存在しない。

メンデルスゾーンの交響曲の番号付けの原則は、極めて明快である。作品番号(op.)と同様に出版順である。第1番は1824年に着手され、完成、初演された。神童メンデルスゾーンも交響曲の初出版には手こずり、1834年となった。第3番は1829年のスコットランド旅行中に着想されたが、本格的な作曲はようやく1841年に始められた。その後は順調に進み、翌年のライプツィヒでの初演後、改訂を経て1843年に出版された。第4番は1830年のイタリア旅行中に着想され、いったん作曲が中断されるものの、ロンドンから新作委嘱を受けて再開され、1833年に同地で初演された。初演の成功にもかかわらず、メンデルスゾーンは改訂に執着し、何度か取り組むが、完遂できなかった。出版は作曲者没後の1851年である。第5番は、1830年のアウクスブルク信仰告白300年祭での演奏を意図して1829年に着想されたが、初演は1832年に持ち越された。故郷ベルリンでの初演の評判は芳しくなく、また、直後にベルリン・ジングアカデミー指揮者後任選挙で落選したこともトラウマとなり、メンデルスゾーンは後年、この交響曲を「燃やしてしまいたい」とさえ発言している。実際には燃やされずに楽譜が残ったため、没後、1868年に出版された。

以上の番号は、1870年代に刊行された「旧メンデルスゾーン全集」でも踏襲され、今日まで定着している。その一方で、現在、刊行中の「新メンデルスゾーン全集」では、「作曲者没後に本人と意志とは関係なく付され

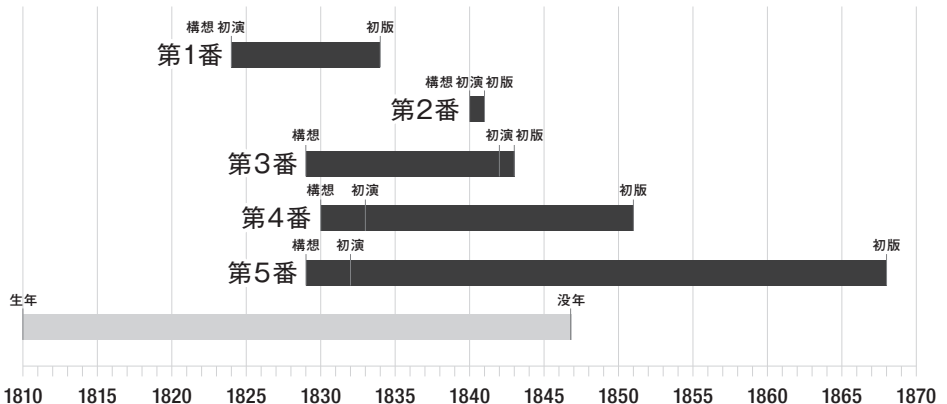
た番号付けは廃止する」という方針により、「イタリア」交響曲も、「宗教改革」交響曲も番号なしで出版された（「イタリア」は2010/11年、「宗教改革」は2017年出版）。上記にて「研究の最前線では、第4番、第5番は存在しない」と宣言した所以である。なお、新旧全集とも、ドイツのBreitkopf & Härtel社から刊行されている。

さて、ここまでの記述で第2番に言及しなかったのは、声楽を含むこの作品の番号付けがより複雑な背景を持つからである。1840年の作曲・初演時にメンデルスゾーン自身、これを「合唱とオーケストラのための交響曲」と私的に呼んだものの、その後、改訂を経て1841年に出版した際には「讃歌：聖書の言葉による交響曲カンタータ」とのタイトルを与えた。つまり、彼は最終的に「讃歌」を声楽付き交響曲ではなく、オーケストラ付き宗教曲と見なしたのである。旧全集でも交響曲の巻ではなく、宗教曲シリーズに収められた。新全集でも同様に、宗教曲シリーズのなかで刊行予定（出版時期未定）である。

それでは、交響曲第2番という呼称は、いつ誰によって付されたのだろうか。私の調査では、1909年出版の「ドイツ演奏会レパートリー事典」が初出である。それまで、メン

デルスゾーンの交響曲第2番は欠番であり、作曲家没後、半世紀以上、2つの候補が拮抗していた。端的に言う、「イタリア」交響曲初演の地イギリスでは、メンデルスゾーン存命中より「イタリア」が第2番と捉えられていた（初版で第4番とされた後もイギリスでは第2番という番号付けが根強く残った）のに対して、ドイツでは作曲者存命中に「イタリア」が演奏されず、一般に存在も知られていなかったため、第2番の唯一の候補となる「讃歌」を交響曲と見なしてよいものか、賛否が分かれていた。旧全集の目次でも、第1番と第3番の間に「交響曲カンタータ：讃歌」が挙げられ、「宗教曲シリーズを参照せよ」と両者の一致が示唆されるものの、「交響曲第2番」という呼称は避けられた。

20世紀に入り、「讃歌」＝「交響曲第2番」と落ちついたのは、この間に交響曲の概念が大きく変化したからにほかならない。サン＝サーンスの交響曲第3番「オルガン付き」（1886年）や、マーラーの交響曲第2番「復活」（1895年）、さらには第8番「千人の交響曲」（1910年）など、多彩かつ巨大な編成の交響曲が出現し、交響曲と宗教曲の境界も曖昧になってきた。作曲家本人が交響曲と呼ぶことを躊躇った「讃歌」だが、ようやく時代が追いついたと言える。



Together With TSO

for Music Lovers

東京交響楽団サポート会員

©N.Ikegami

ご芳名（敬称略）

法人
会
員

プラチナ会員

株式会社エイチ・アイ・エス
株式会社ドワンゴ

ダイヤモンド会員

有限責任 あずさ監査法人
株式会社伊藤総合事務所
株式会社イノアックコーポレーション
株式会社インサイド・アウト
環境ステーション株式会社
学校法人創志学園
株式会社ティーワイ リミテッド
株式会社日本財託
株式会社パソナグループ

ゴールド会員

株式会社あ佳音
株式会社青山メインランド
オリエンタル酵母工業株式会社
サントリーホールディングス株式会社
株式会社すかいらーくホールディングス
社会医療法人財団石心会
玉川学園・玉川大学
玉の肌石鹸株式会社
中外製薬株式会社
銚子屋油槽船株式会社
株式会社TFDコーポレーション
株式会社鉄鋼ビルディング
株式会社トーシンパートナーズ
西松建設株式会社
株式会社NIPPO
株式会社日本M&Aセンター
ヒノキ新薬株式会社
司法書士法人ふなざき総合事務所
ミヨシ油脂株式会社
ヤマザキビスケット株式会社

シルバー会員

株式会社NHKビジネスクリエイト
公益財団法人青梅佐藤財団
川崎信用金庫
松竹株式会社
月島食品工業株式会社
東京鐵鋼株式会社
司法書士法人村田事務所

ブロンズ会員

アーティス ホールディングス株式会社
NPO法人かわさき市民アカデミー
有限会社青史堂印刷
酒蔵駒八 別館
株式会社シグマコミュニケーションズ
新宿村スタジオ
ニッシンエレクトロ株式会社
富士フィルムビジネス
イノベーションジャパン株式会社神奈川支社
前山歯科医院
株式会社LALLヒューマンホールディングス

賛助企業

東海大学教養学部 芸術学科音楽学課程
政鬼運輸株式会社
山崎製パン株式会社

匿名2社



©N.Ikegami

ご芳名 (敬称略)

個人会員

サークル50

磯村 文靖
伊藤 晴美
伊藤 量樹
海 量明
木暮 紀子
澤田 秀雄
清水 尚彦

長瀬 雅則
山口 積恵
山口 知子☆
山口 学
山口 誠一郎
山本 一郎
横川 誠二
匿名 2名

☆名誉ハトロン

サークル25

石川 晴依世
猪田 隆文
井上 孝昭
岡野 一哉
沖田 陽子
加藤 英輔

後藤 実
鈴木 信恵
戸川 智史
平川 二史
福川 伸次
匿名 3名

サークル10

天野 住和
新井 祥一
荒木 陽子
五十嵐 建平
井澤 菜緒
稲田 めぐみ
岩城 慶太郎
城内 誠彦
山内 麻衣
梅沢 秀和
遠藤 由紀子
大内 田由紀子
大城 明幹
大島 肇
太田 純子
大塚 具幸
大類 潤一
岡 浩
尾形 邦子
尾形 丈人
小川 悠司
梶井 龍太郎
片山 泰輔
片山 尚弘
金山 賢生
金田 光剛
木質 光剛
木内 正則
小林 光
小丸 健
近藤 和喜夫
斎藤 脩司
佐々木 真
佐藤 大助
洪 慎吾
清水 幹雄

白井 恭一
高澤 美貴子
高田 光
高津 麻子
高野 幸一
高橋 智子
高島 琢己
高家 正行
田中 忍
田中 建一
谷川 啓
谷藤 明雄
千葉 清隆
角田 隆生
原 朝和
手塚 和彦
仲川 昌宏
中澤 正
中村 豊
成瀬 倉祥
橋本 純一
長谷川 泰弘
濱田 尚人
早川 希
原田 美保子
アーンスト M. 比嘉
平川 尚義
枇杷庄 高志
増岡 忠雄
三浦 聡一郎
水越 睦美
満田 高久

三橋 太
岸 博
本 信
森 健
森 幸
下 京子
八 健
国彦
昭

フランス5

東 恭代
有江 純子
石原 祥子
井上 伊健
潮田 健
大石 直輝
大川 朋彦
大野 紀和
奥秋 和彦
加藤 千恵子
河野 愛
小森 義彦
林 裁
斎藤 信一郎
塩沢 誠司

高際 比呂志
寺西 基之
中島 信利
早川 正道
原 崇志
本多 崇志
松信 聡
山口 修造
山田 敏之
山田 喜良
山本 四郎
吉田 若長
和久 敦郎
渡辺 長輔
匿名 2名

フランス3

*青木 眞輝
秋山 純一郎
山田 重樹
明田 重樹
荒 洋
有坂 あかり
飯田 薫
池田 一彰
石澤 卓志
井上 卓志
上瀬 聡
岩田 正明
居由 正昭
梅本 千枝子
大川 剛元
大北 美結
大熊 透
大津 啓一
大塚 展男
大塚 昌資
大橋 桂子
奥田 俊文
小澤 尾島
尾島 小田
小田 皆瀬
皆瀬 修
金澤 聡
兼子 伸彦

狩野 裕基
川村 純一郎
村 綾
菊池 弘子
池田 正信
菊池 洋
北川 盛弘
木下 幸枝
工藤 一穂
久保田 宏樹
倉谷 孝
小倉 孝
古杉 忠司
小山 悦司
佐藤 健司
今井 健司
佐藤 有男
芝崎 良枝
清水 弘也
杉田 也子
鈴木 忠真
鈴木 眞理子
須根 三善
関根 祐次
高石 正人
高橋 あみ
竹内 美貴子
田中 豊
都築 富士春
直井 幸雄

中村 好伸
永井 博利
長瀬 明昭
西根 直暢
根本 明
野本 敏嗣
浜本 嗣士
早川 克己
林 美奈子
春山 典
福田 昭夫
藤田 智
田野 盾臣
藤野 盾臣
森 盾臣

フランス1

■あ 赤塚 節恵
秋本 大文
浅里 士男
阿部 百合子
新井 智彦
安藤 智昭
飯島 就利
池田 利昭
石井 俊輔
石川 正行
石川 由紀
磯村 幸一郎
井手 泰宏
伊藤 靖子
伊藤 宗功
伊藤 力雄
稲葉 順一
稲葉 順一
井上 浩
井上 康子
猪瀬 正
今井 由紀夫
今宮 美知子
今村 知子
今村 裕
岩澤 淳子
岩瀬 古
岩野 順一
岩野 一
岩野 成
岩野 重男
岩野 真名子
岩野 さゆり
岩野 正芳

瓜生 江川
大嶋 信彦
大嶋 孝義
大島 正
大島 初彦
大島 康健
大塚 健司
大塚 佳子
大西 佳子
大貫 香
大畑 信
大森 幸吉
大八木 節子
岡田 美穂
岡村 邦
岡村 直
岡本 弘晋
小川 安江
小川 康
小川 知子
小川 和歌子
小川 篤
小川 美子
小川 史
小川 克彦
小川 ヒロ
小川 エル
尾崎 剛
生島 雅雄
生島 信也
小野 廣一
小野 純二
小野 嘉文
小野 美穂
小船 美穂
か 甲斐 幸士



<東京交響楽団サポート会員制度>

東京交響楽団は、一流指揮者の招聘やチャレンジングなプログラミングによる定期演奏会の充実、次世代を担う子供たちの育成等、これまで以上に積極的な演奏活動を展開し、音楽文化の向上に努めて参ります。そのため不可欠な運営基盤の強化のため、広くご支援をお願いしております。みなさまのご入会を心よりお待ちしております。

個人会員

フレンズ1

年額1万円
～29,999円

フレンズ3

年額3万円
～49,999円

フレンズ5

年額5万円
～99,999円

サークル10

年額10万円
～249,999円

サークル25

年額25万円
～499,999円

サークル50

年額50万円～

法人会員

東京交響楽団とのパートナーシップは、御社のイメージアップにつながるだけでなく、従業員の皆様の福利厚生にもつながります。

ブロンズ

年額10万円～

シルバー

年額30万円～

ゴールド

年額50万円～

ダイヤモンド

年額100万円～

プラチナ

年額1000万円～

会員特典

詳細はHP、
又はお電話でお問合せ下さい

	法人会員	サークル 会員	フレンズ会員		
			フレンズ5	フレンズ3	フレンズ1
主催公演へご案内	○	○			
ゲネプロ見学会(年3回以上)	○	○	○	○	
リハーサル見学会(年3回以上)	○	○	○	○	○
ご芳名掲載	○	○	○	○	○
主催公演チケット先行予約*1	○	○	○	○	○
公演チケットをご優待価格にてご案内*2	○	○	○	○	○

*1 一部対象外もございます。*2 東京交響楽団の主催公演およびミュージアムザ川崎シンフォニーホール主催公演が対象です。一部対象外もございます。

税制上の優遇措置について

東京交響楽団は内閣府より公益財団法人の認定を受けており、当楽団への御寄附には税制上の優遇措置が施されます。

◎個人の場合:「寄附金額から2,000円引いた金額」の40%分*3について、税金(所得税・個人住民税)を控除されます。

また相続税にも控除が適用されます。

◎法人の場合:「損金算入限度額」が一定の算式に従い、拡大されます。*3

*3但し、各該当法令で定められた限度があります。

その他、マッチングギフトやご遺贈、相続ご寄付についてもご案内させていただいております。

公式サイトからクレジットカードでサポート会員にご入会(ご寄付)いただけます。

<http://tokyosymphony.jp/support/procedures.html>



サポート会員へのご入会・お問合せ **TEL 044-520-1518**

公益財団法人東京交響楽団川崎オフィス 支援開拓本部 E-mail supporters@tokyosymphony.com

Meet the Musicians

楽団員紹介

室内楽経由のオーケストラ・チェリスト

内山 剛博

Takehiro Uchiyama

[チェロ奏者]2022年1月入団

趣味：料理、Nintendo Switch(スプラトゥーンを極めてます)



©N.Ikegami

“緊張感ある”ヴァイオリンから “和やかな”チェロに

物心ついた頃にはピアノを、5歳からヴァイオリンをはじめました。8歳の時に桐朋子児のための音楽教室でヴァイオリンを習いだし、周囲のレベルの高さに衝撃を受けました。人生最初の挫折でした。そんな中、弦楽オーケストラの授業で、ヴァイオリンの人たちは凄い緊張感に包まれていたのに対し、チェロセクションがとても和やかな雰囲気のみえたのです。それで「チェロに変わろうかな」と(笑)。父が趣味でチェロを弾いていたこともあり、11歳のときにチェロに転向しました。

その後音高、音大に進学。家族全員が楽器を演奏する環境だったので、音楽での進学は自然な流れでした。演奏に対する意識が変わったのは、大学2年生のとき。“人と弾く”楽しみに目覚め、室内楽で積極的に活動するようになりました。少人数且つ時間は有り余る学生だったので、出てくるアイデアは取り敢えず全て試していましたね。当時、沢山の“実験”をしたことは、今の忙しいオーケストラ生活の中で大いに役立っています。

室内楽の延長線上にあったオーケストラ

室内楽ばかりやってきた私が、オーケストラを楽しいと思えるようになったのは、実はここ最近のことです。オーケストラはあまりにも情報量が多く、自分が情報を追いつけないよ

うな、空振りしているような感覚で、なかなか楽しめたことが無かったです。

そんな状況で、初めてプロオーケストラで弾く機会をいただいたのが、2021年12月「モーツァルト・マチネ」のソット監督との公演でした。東響での初めての演奏が、モーツァルトとハイドンの「協奏交響曲」で比較的小編成の作品だったことで、室内楽の延長にオーケストラがあるという実感が強まりました。昨年5月に演奏したソット監督との「ブラームス：交響曲第3番」は、お互いのアイデアが伴って初めて完成する、オーケストラも果敢に発信する音楽がとても楽しく、演奏後もニコ響で何度も見返しました(笑)。初めて心の底からオーケストラを楽しめた、思い入れの強い演奏会です。



小学生のときに、ヴァイオリンの発表会で。

インタビュー：事務局

NEWS & TOPICS

正 楽 団 員

2023年6月1日付

小山 あずさ Azusa Koyama
[第1ヴァイオリン奏者]

埼玉県出身。東京藝術大学を卒業、同大学大学院修士課程を修了。2015年から2022年10月まで仙台フィルハーモニー管弦楽団に在籍。ソロや室内楽の演奏活動も活発に行っており、山形交響楽団メンバーとの室内楽がアフィニスアンサンブルセレクション2020へ選出されたほか、日本演奏連盟による新進演奏家育成プロジェクトにおいて仙台フィルハーモニー管弦楽団と協奏曲を共演し、いずれも高い評価を得た。



©N.Ikegami

退 団

2023年7月31日付

佐藤 友紀
Tomonori Sato

[首席トランペット奏者]



©N.Ikegami

2006年に入団し、17年にわたり活躍いたしました。

夏恒例!

「東響オリジナルシャツ2023」販売決定

昨年に引き続き、市内で活躍する障害のあるアーティストとのコラボアートシャツを今年も販売いたします。[studio FLAT]所属アーティストの作品と、ノット監督直筆の「NOTTISSIMO」とのコラボレーションが前面にプリントされ、力強さ、潔さ、さらに配色の美しさが特徴です。

オンライン支店販売に加えて、7/15(土)川崎定期演奏会より会場販売いたします。



NEXT PROGRAM

9/23(土・祝) 第714回 定期演奏会 18:00 サントリーホール

24(日) 新瀨定期演奏会 第133回 17:00 “りゅーとぴあ”コンサートホール

- 指揮:ロレンツォ・ヴィオッティ
- ソロ・ヴァイオリン:グレブ・ニキティン
- ベートーヴェン:交響曲 第3番「英雄」
- R.シュトラウス:交響詩「英雄の生涯」
- [9/23]S¥8,000 A¥6,000 B¥5,000 C¥4,000 P¥2,500
- [9/24]S¥8,500 A¥7,000 B¥5,500 C¥4,000 D¥3,000

りゅーとぴあチケット専用ダイヤル 025-224-5521(11:00~19:00/休館日除く)



9/30(土) 東京オペラシティシリーズ第134回 14:00 東京オペラシティコンサートホール

- 指揮:アンガス・ウェブスター
- コントラルト:ジェス・ダンディ
- アンナ・クライン:彼女の腕の中で
- エルガー:海の絵
- ブラームス:交響曲 第4番
- S¥7,000 A¥6,000 B¥4,000 C¥3,000

TOKYO SYMPHONY チケットセンター 044-520-1511(平日10:00~18:00/土日祝休)



東京交響楽団

川崎市フランチャイズオーケストラ
新潟市準フランチャイズオーケストラ

公式サイト <https://tokyosymphony.jp>



1946年、東宝交響楽団として創立。1951年に改称し現在に至る。サントリーホール、ミュゼ川崎シンフォニーホール、東京オペラシティコンサートホールで主催公演を行い、文部大臣賞を含む日本の主要な音楽賞の殆どを受賞。新国立劇場のレギュラーオーケストラを務めるほか、川崎市や新潟市など行政と提携した演奏会やアウトリーチ、「こども定期演奏会」「0歳からのオーケストラ」等教育プログラム、ウィーン楽友協会をはじめとする海外公演も注目されている。さらに日本のオーケストラとして初の音楽・動画配信サブスクリプションサービスや、VRオーケストラ、電子チケットの導入などITへの取組みも音楽界をリードしており、2020年ニコニコ生放送でライブ配信した無観客演奏会は約20万人が視聴、2022年12月には史上最多45カメラによる《第九》公演を配信し注目を集めた。

近年は、音楽監督ジョナサン・ノットとともに日本のオーケストラ界を牽引する存在として注目を集め、《サロメ（演奏会形式）》は、毎日新聞クラシックナビ「2022年開催公演ベスト10」第1位、音楽の友誌「コンサート・ベストテン2022」で日本のオーケストラとして最高位に選出された。



Jonathan Nott began his tenure as the 3rd Music Director of the Tokyo Symphony Orchestra in 2014 season. The Tokyo Symphony Orchestra, together with music director Jonathan Nott, has been attracting attention as a leader in the Japanese orchestra world, and its Salome in Concert Style was selected as the best Japanese Concert in the "Concert Best Ten 2022" by Ongaku no Tomo magazine, and won the he Best Recording of Music Pen club Japan Award for Opera & Orchestra category and Tokyo Symphony Chorus, Orchestra' s amateur chorus also won the prize for Chamber & Chorus category.

Highlights of past seasons with Mo. Nott include Symphony 9 by Beethoven filmed by 40 cameras, the largest record of the orchestra history live-streamed nationwide, Gurre-Lieder by Schoenberg celebrating 15th Anniversary of Muza Kawasaki Symphony Hall, TSO' s home and Mozart' s Da Ponte Operas in concert style. In March 2020, the live-streamed concert without audience on nico-nico Live Channel which attracted more than 200,000 viewers nationwide, has been a mega-hit in Japan.

Outside of Japan, the orchestra has performed 78 concerts in 58 cities since 1976. The Tokyo Symphony Orchestra was founded in 1946 and has a reputation for giving first performances of a number of contemporary music and opera, and has been regularly performing various operas and ballets at the New National Opera Theatre, Tokyo since its opening in 1997.

マエストロ・シート

【5組10名の小・中・高校生無料招待】



NICO NICO
TOKYO SYMPHONY
ニコニコ東京交響楽団



音楽・動画配信サイト
[TSO MUSIC & VIDEO
SUBSCRIPTION]

1か月550円(税込)



このプログラムは見やすく・読みやすさに配慮したユニバーサル・デザインフォントを使用しております。

TOKYO SYMPHONY ORCHESTRA MONTHLY CONCERT BROCHURE
Symphony

Symphony 2023年(令和5年)7&8月号 [非売品]

発行 公益財団法人東京交響楽団 〒169-0073 東京都新宿区百人町2-23-5 TEL 03-3362-6764

<川崎オフィス> 〒212-8554 神奈川県川崎市幸区大宮町1310

ミュゼ川崎セントラルタワー 5階 TEL 044-520-1518

Art Direction & Design : Be.To Bears 印刷 : NHKビジネスクリエイト